

## 2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 02 月 05 日作成)

小委員会名	ソーラー建築情報小委員会		主 査 名：石川 幸雄 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：宇田川 光弘
設 置 期 間	2007 年 04 月～2010 年 03 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ソーラー建築の普及を推進するため、PV 建築や熱利用建築に関する最新情報の収集、新データの作成を行い、会員および建築家に広く情報公開する。また、ソーラー建築の設計、評価に有用なデータ、資料の標準化を図り、管理する。さらに、設備設計図書のアカデミックスタンダード化に向けて、ソーラー設備設計図書の標準化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2007 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの計画</li> <li>・2008 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの実施</li> <li>・2009 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、刊行物の出版</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	石川幸雄 (三重大学)、相曽一浩 (矢崎資源)、伊藤宏之 (テクノビジョン・インテリジェントシステムズ)、大野二郎 (日本設計)、木村建一 (国際人間環境研究所)、近藤純一 (鹿島建設)、後藤謙一 (後藤デザインシステムズ)、佐野邦彦 (建築環境・設備ネットオフィス)、榛葉敏昭 (ソーラーシステム振興協会)、中島康孝 (建築環境・設備技術情報センター)、長尾岳彦 (元旦ビューティー工業)、福田全志 (カンキョウエンジニアリング)、藤木隆明 (工学院大学)、渡辺荘児 (森ビル)、山口恵子 (建匠社)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2009 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：現在無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価		
委員会開催数	9 回 (年度内計画を含む)		
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. (書名) 無し		
講習会	1. (名称) 無し	参加者数	名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称) 無し  (資料名)	参加者数	名
大会研究集会	1. (名称) 無し (資料名)	参加者数	名
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 特に無し		

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーラー建築に関する設計評価用データを収集・作成・更新・整備した。</li> <li>2. 学会ホームページ等を利用したソーラー建築情報の発信には至らなかったが、委員会終了後の情報発信の方法について検討した。</li> <li>3. 設備設計図書のアカデミックスタンダード化に向けて、ソーラー建築設備設計図書の標準化を検討した。</li> <li>4. ソーラー建築に関する設計・施工・管理資料の出版計画を行なった。 →以上から、概ね本年度の目標を達成した。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特に無し</li> <li>2.</li> <li>3.</li> </ol>

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2009 年度 小委員会活動 自己評価

## (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>設置目的と活動計画：</p> <p>ソーラー建築の普及を推進するため、PV 建築や熱利用建築に関する最新情報の収集、新データの作成を行い、会員および建築家に広く情報公開する。また、ソーラー建築の設計、評価に有用なデータ、資料の標準化を図り、管理する。さらに、設備設計図書のアカデミックスタンダード化に向けて、ソーラー設備設計図書の標準化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2007 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの計画</li> <li>・2008 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの実施</li> <li>・2009 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、刊行物の出版</li> </ul> <p>活動成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2007 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討→結果を建築設備設計図書アカデミックスタンダード化へ反映、シンポジウムの計画</li> <li>・2008 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの実施 「ソーラーアーキテクチャシンポジウム（ソーラー建築情報小委員会）」開催、2008 年 5 月、建築会館ホール、98 名参加、約 20 万円黒字</li> <li>・2009 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、刊行物の出版計画</li> </ul> <p>以上から、設置目標を概ね達成した。</p> <p style="text-align: right;">(ソーラー建築情報小委員会)</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。